

音  
樂  
の  
風

山内えりか

遠い昔、まだ人間が一人も居なかつた頃。太陽や月、水や、土や木々はもうすでにこの世に現れています。そして、"風"ももちろん、もう存在していました。

“風”の仕事は二つありました。その一つは生き物たちに生命を与える事。

し始め、生命が動き出します。また、風がもう通  
るのをやめると、その生き物は息をしなくなり、生  
命は終わるのです。（そういうふうになつていまし  
た。）

鉛筆で音符を書いて消しゴムで消してみたり、本当にいい音になつていてかどうかピアノで弾いてみたりする、というのもありません。風が何かに働きかけ、そこに心の動きがあると音楽になつて出て来るのであります。木の枝や葉が歌をうたうのは誰でも良く知つているでしょう。海も川も雨もうたうし、山や岩もうたいます。紙だってカーテンだってスカート

そして“風”的もう一つの大切な仕事は、音楽を作ることでした。作る、と言つても風が自分で作ることでもないこうでもないと考えて、音符用のワープロ(?)のキーボードをたたくのではありません。または鉛筆で音符を書いて消しゴムで消してみたり、本当にいい音になっているかどうかピアノで弾いてみた

『淋しいから誰か来て欲しいな…』 とうたう木の葉  
もあるし、『私が見ていてあげるから安心していい  
よ』 という歌を聞かせてくれる木もあります。

す。  
もちろん人間の歌も同じ様に  
しろいあります。

\*

生命を与える風が通つて息をし始めた人間達の  
様子を、今度は音楽の風が見て います。心中に何  
か素晴らしい物が生まれた時、音楽の風はその人間  
に働きかけるのです。すると、その人間はうたい始  
めます。(もちろん人間ばかりでなく他の物もそ  
う)

れ出して来るので。誰かに会えて嬉しい事も、何かを無くして悲しい事も、一人になってしまつて淋い事、メロメロ涙流つゝ、心の動きが止ります。

自然の営みに対する驚きや恐れ、祈りの気持ちも

そうですし、とても大切な者への言葉にならない働きかけや言葉以上の思い、自分を元気づけたい気持ちや感謝の気持ちなどにも、この風が作用すると、息が歌になって、生命の流れが音楽になって出でてきます。

でも、こういう場合もあります。何かに対する思いがとても強すぎる時、その思いは重くなります。あまり重くなると底の方に沈んでしまって、音楽の風の力では動かせなくなるので歌は生まれません。反対に軽すぎる場合もだめです。すぐに吹き飛んでしまって、音楽という流れが出来る前に散ってしまうからです。

あまり沢山の音楽が常にどこでも流れ続いていると、やはりうるさいので、風はちゃんと選んでいる訳です。

また、それを送るのも風の役目です。学校へ行っている子供を親が優しい気持ちで思い浮かべた時、

風はそれを送り届け、子供は安心して過ごせます。よく、"気のせい"とか、"虫の知らせ"とか言われることも、実は風の仕事なのですね。他に、恋人達の想いも同様に風が送り届けます。ただこちらの場合には安心する事はなかなか難しく、心が波立つてしまふ事の方がずっと多いのですが、そこまでは風も責任を負いかねるのでしょう。

と、まあこんなふうに、昔は風の仕事は今よりもっと大切とされていました。今では、特に音楽の

風の方は様々な機械や技術にとってかわられて、仕

ます。わずかな心の動きにさえも風が働きかけて音楽が生まれる、というのは今でも大いに有り得る事なのです。

かすかな風の動きに、ちょっと心をとめてみて下さい。何かが生まれるかも知れません。また、静かに耳を傾ける種類の音楽を忘れないで下さい。電気の力で押し寄せる音楽よりも聴くための努力が要りますが、よく聴いてみると心が澄んで来るでしょう。それはとても気持ちの良いものです。

もうひとつ、歌をうたう時は、自分の身体の中の風を感じてみて下さい。息をしている人なら誰でも分かるはずです。その風に声が乗ると、これもまた気持ちの良いものです。

\*

そして私は、と言うと、作曲をする時、もう少し  
風が助けてくれないかなと、いつも思います。心が  
静かに澄んで来れば、少しは助けてもらえるかも知  
れません。……。

(作曲家)